

伝承と伝播

―会長特別表彰の贈呈行脚雑感―

公益社団法人 全国行政相談委員連合協議会会長

小野 勝久



平成30年6月18日、全相協は、設立50周年記念式典・祝賀会を180名余の参列者のもと東京「グランドアーク半蔵門」で開催しました。その模様は、季刊行政相談第158号に詳しく紹介されていますので、ここでは当日、突然の「大阪府北部地震」によって出席できなかった方々や体調を崩されて出席できなかった方々にこちらから出向いて賞状を差し上げてきた模様をこぼれ話として紹介したいと思います。

大阪府北部地震は、6月18日午前7時58分ごろ、大阪市など5市で観測され最大震度6弱の強いものでした。当日、すでに新幹線に乗りかかっていた方々は、途中で引き返すか、そのままいつ動くとも分からぬ車内でじっと運行再開を待つ大変な状況でした。何とか到着された方の中には、祝賀会閉会後の午後9時過ぎになり、なんと13時間のご苦労をされた方もおられました。

これらの状況に私は、改めて感謝の気持ちを表したく当日出席で

きなかった方々のところに自分が出向くことにしたものです。全相協の50年という長い歳月は、設立から今まで多くの関係者の変わらぬご協力により維持できたことで、これまで支えてくださった方々の想いに直接お応えするくらいのことには当然だと考えました。

最初に訪問したのは中国四国管区行政評価局で7月3日のことでした。贈呈式は、中国広相協の秦会長や岡山地相協の角南会長、さらには水上局長(当時)、藤澤総務

相談部長、杉山行政相談課長など立ち会いのもと、厳粛な中にも和やかに挙行することができました。受賞対象者の浦部康造前理事、新時高委員、小若隆正委員は、緊張の面持ちながらも受賞を大変喜んでくださいました。

式後、広島及び岡山山地相協の行政相談活動などについて意見交換をしたのち、近くの百貨店の食堂に移り懇談会を行いました。会の始まる午後6時頃は曇りであったが、懇談会の終わる8時頃には強い雨となりました。これが九州地方では3日から降り続き、結局8日までに11府県に大雨特別警報が発表され、西日本各地で河川の氾濫、土砂崩れなどにより、死者227名超、行方不明者10名の大災害をもたらした。西日本豪雨の始まりでした。角南会長も近所の河川氾濫により約1週間の避難生活を余儀なくされたこと伺ったのは後日のことでした。

翌7月4日、朝は晴れ、新幹線で岡山から乗り換え高松までは運行していたので、四国行政評価支局に無事到着することができました。サンポート合同庁舎の支局では、久保香川地相協会長、松田支局長、真井総務行政相談管理官、尾崎行政相談課長などが暖かく迎えてくださいました。関係者の皆さん立ち会いのもと、直ちに会議室で贈呈式を行い、50周年記念宣言の起草文作成にご尽力いただいた田中和男委員に賞状を差し上げました。式後、隣接するホテルで受賞者を囲み、8名ほどで瀬戸内海の島々を眺めながら全相協の話題などを交え和やかに昼食をとりました。

7月5日、福島行政監視行政相談センターで、福島地相協会長、東北広相協会長、全相協理事として永年にわたりご活躍された小宅厚前理事への贈呈式を行いました。芳賀福島地相協会長、秋山副

会長のほか、わざわざ仙台から、米澤東北管区局長(当時)、小野総務相談部長、そして地元の矢部所長、五十嵐行政相談課長などのご出席をいただきました。昼食をしながらの意見交換となり、小宅前理事が建設に関わったという「コラッセふくしま」の12階展望レストランで、吾妻や安達太良連峰を見ながら行政相談のご苦労話や、全相協への支援などについて活発な話し合いがなされました。福島地相協の皆様に変更して感謝した次第でした。

7月11日、近畿広相協の対象者の皆様への贈呈式を近畿管区行政評価局で行いました。この贈呈式には、白国近畿広相協会長、米村(福井)、國松(滋賀)、片山(兵庫)、柳谷(奈良)、松島(和歌山)の各地相協会長や山口副会長(京都)、また近畿管区から、角田局長(当時)、稲垣総務相談部長、山根行政相談課長など17名もの大勢の方の立ち

会いのもと、全相協に永年ご尽力された圓尾哲元理事、田毎照隆前副会長、白國哲司大阪地相協会会長、大草亘委員、池内啓二委員の5名に感謝状をお渡しすることができました。式後に開かれた受賞者をお交えた近畿広相協役員会において、6月18日開催の通常総会及び50周年記念式典等の模様を報告し、意見交換を行いました。

7月23日、24日は沖縄行政評価事務所にお邪魔しました。23日は、沖縄本島中南部地域の行政相談委員の研修会にお招きいただき、私の講話と櫻井事務局長から全相協の事業についての説明を行いました。古波鮫会長、津波古前会長、新城元会長はじめ15名の皆さんには熱心に耳を傾けていただき、感謝いたします。研修会后、近くの郷土料理店で懇親会を行いました。紅型の琉装をした店員さんのお出迎えにお礼を言い、琉球料理と泡盛に舌鼓を打ちながらの会話

は、同じ役目を担う仲間として意気投合するひとときでした。

翌24日は、事務所から車で1時間ほどのうるま市にお住まいの小波津敏勝元参与宅にお伺いし賞状をお渡ししました。終戦当時のご苦労ばなしや、沖縄地相協の昔ばなしを懐かしく話されていたのがとても印象的でした。空港へ向かう途中、嘉手納米軍基地の道路沿いにある道の駅で、昼食の沖縄そば「ソーキそば」を食べながら城間所長から沖縄の状況についての丁寧な解説を伺いました。また、兵庫など各県の慰霊碑が並ぶ嘉数展望台から見る普天間の滑走路は私を重い気持ちにさせました。

今回の会長特別表彰の贈呈行脚にあたり、訪問させていただいた管区局、事務所、センターの皆様には大変お世話様になりました。心から感謝とお礼を申し上げます。

各地にお邪魔して感じたこと

は、受賞されたお一人おひとりが、式典当日受賞された方々と同様、行政相談委員制度の持つ意義をよく理解され実践されてきた素晴らしい方々だと言うことです。今後変わらぬ、行政相談制度の認知度アップと地相協にあってはリーダーシップを発揮され、更には広相協、全相協のより一層の活性化、改革にお力添え願えれば幸いです。

また、行政相談委員制度も世代交代をしながら繋いで行く仕組みであることから、退任された行政相談委員さんには健康の許す限り、今までの経験や知識やスキルなどを仕舞い込まず是非現役の行政相談委員に伝えていただく「伝承官」の役割をお願いできないものかとも考えました。

「伝承」をOBが、「伝播」を現役が担えば、きっと世界に誇る日本型オンブズマン制度になるものと信じて疑いません。